

3 中学校指導案



(三段滝)

中学校 1年生 学級活動

心身ともに健康で安全な生活態度や習慣を形成する

◇ 本時の目標 災害がいつ、どこで、誰に対しても起こり得るということを認識させ、災害時の判断の大切さや災害への心構えを育てる。

◇ 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 最近の災害に対する知識の確認と、災害についての一般的な認識を確認する。</p> <p>○「東日本大震災」「パキスタン大地震」等自然災害でたくさんの人が被害を受け、亡くなった人も多くいることについて考えていることを発表する。</p> <p>○志和町内区の水害のときの写真を見せる。</p> <p>2 自分が災害にあう可能性を考える。</p> <p>○生きている間に自分のこのような災害は起こると思うか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">資料を読み大雨の時の判断や対処について考える</div> <p>3 大雨で列車が止まり、崖崩れの危険があり、列車から降りる指示に対して、どう判断し、行動するか考える。</p> <p>4 崖崩れのあった方角から泥水を乗り越えてきた男の人が現れる。その時どうするか考え、話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">グループ協議</div> <p>5 その後どのような災害が起きるのか予想する。(その後に起こった不幸とはどんなものだったのか予想する。)</p> <p>6 この水害を通して考えたことや感じたことを振り返る。</p>	<p>◇素直な意見を発表させる。</p> <p>◇自分たちの住んでいる地域でも災害が起こったことがあり、よそ事ではないことに気付かせる。</p> <p>◇多くの人は、「今の平和な日常生活がずっと続く。自分だけは大丈夫。」と思っている傾向にあることを知る。</p> <p>◇ワークシートに自分の意見を理由も併せて記入させ、色々な考え方について知らせる。</p> <p>◇ワークシートに自分の意見を理由も併せて記入させ、色々な考え方があることを交流させる。</p> <p>◇実際に男について行った人は無事に脱出できたことを知らせる。</p> <p>◇最後まで興味を持ちながら読めるように、予想したことを自由に発言させる。</p> <p>◇自然災害はものすごい力で、襲いかかることを認識させる。</p> <p>◇「災害時でも人々は生きるために、よりよい方法を探し判断して行動する」等の学習内容を整理する。</p> <p>◇自分でできる防災についてまとめさせる。</p>	<p>・災害時に自分がどう判断するかしっかり考え記述している。 (観察・ワークシート)</p> <p>・災害への心構え、準備が大切であるということに気づく発言や記述が見られる。(発表、ワークシート)</p>

資料 (出典名) 『手記 ‘93 風水害の中で』 (「かごしま文庫」 編集部編 (春苑堂出版))

中学校 1年生 学級活動

心身とも健康で安全な生活態度や習慣を形成する

◇ 本時の目標 危険な場所、安全な場所について理解し、風水害等からの避難時に安全な行動がとれるようにするために、地域の様子を調べる。

◇ 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 小学校に移動。 ○あいさつ ○小学生との顔合わせ</p>	<p>【事前指導】 ◇経路の地図を作成させておく。 ◇フィールドワークの目的や危険な場所、災害の起きそうな場所について指導しておく。 ◇記録等の係を決めておく。 ◇日程確認をしておく。</p>	<p>・無駄のない経路になっている。(地図)</p>
<p>2 グループごとにフィールドワークに 出発 ○中学生と小学生がグループになり、引率 教員とともに地域を歩いて調べる。 〔引率教員〕 小坪地区(教頭, 教諭2) 長浜地区(教頭, 教諭1) ○調べるポイント ・避難場所(高台等) ・がけ崩れ ・海への転落 ・道路状況(道幅, カーブ等) ・その他(水害, 地震, 津波等)</p>	<p>【フィールドワーク時の約束】 ◇班長の指示を聞く。 ◇勝手な行動はしない。 ◇自分の目で見て探す。 ◇交通安全に気を付ける。 ◇出会った人に挨拶をする。 ◇小学生にわかりやすく説明する。</p>	<p>・危険箇所について正確に記録している。 (ワークシート) (写真) ・小学生や地域の方々とコミュニケーションを図っている。 (行動観察)</p>
<p>3 フィールドワーク終了後 ○小学校に集合 ○人数確認 ○解散</p>	<p>【事後指導】 ◇振り返りの時間をしっかり確保する。 ◇フィールドワークで気付いたことをまとめ、日常生活に結び付けるよう指導する。</p>	<p>・避難場所や避難方法について適切にまとめている。 (ワークシート)</p>

資料(出典名) 兵庫県立舞子高等学校環境防災科(防災教育チャレンジプラン)

中学校 2年生 社会

身近な地域及び各県の地域的特色として、様々な災害について調査する

◇ 本時の目標 日本の特徴的な自然災害とその要因について理解し、被害を最小限に食い止めるための対策について考え、まとめることができる。

◇ 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 日本の地形・気候の特色について復習する。</p> <p>○国土の70%は山地である、海溝から見ると10,000mを越える山地である、気候は6つの気候区に分かれているなど。</p> <p>2 日本の特徴的な自然災害を知る。</p> <p>○地震、津波</p> <p>○台風や梅雨前線の活動による大雨被害</p> <p>・火山活動による被害など</p> <p>3 自然災害の要因を調べる。</p> <p>○教科書と資料集を使って各自然災害の要因について調べ、ワークシートにまとめる。</p> <p>4 自然災害への対策を考える。</p> <p>○自分の考えをそれぞれの自然災害についてことばで表現する。</p> <p>○グループ交流及び学級全体の交流で考えを深める。</p>	<p>◇環太平洋造山帯の一部である、気候は地形・緯度・海流・季節風等の影響を受け、地域によって大きく差があることを押さえておく。</p> <p>◇写真やビデオ等の視聴覚教材を準備しておく。</p> <p>・地震、津波</p> <p>・集中豪雨、洪水、暴風、地滑り、山崩れ、土石流、竜巻</p> <p>・火砕流、噴出物</p> <p>◇写真、要因が一体となったワークシートを準備しておく。</p> <p>◇自然災害が発生したときに被害を最小限に食い止めるための対策を考え、交流させる。</p> <p>・国や自治体レベルでの対策と各家庭や個人レベルでの対策があり、そのどちらも大切であることを押さえる。</p>	<p>・日本の特徴的な自然災害に対する対策を考え、まとめている。</p> <p>[思考・判断・表現]</p> <p>(観察・ワークシート・発表)</p>

中学校 2年生 保健体育

自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じる ことについて理解する

◇ 本時の目標

- 1 傷害の防止について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組むことができる。
- 2 自然災害による傷害は二次災害によっても生じることについて理解する。

◇ 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準[観点] (評価方法)
<p>1 自然災害とは、何か考える。</p> <p>○自然災害が生命や生活に被害をもたらすこと。 「忘れた頃にやってくる」</p> <p>自然災害には、どんなものがあるか？</p> <p>例…地震、台風、津波、土砂崩れ、地割れ、火災、洪水、ゲリラ豪雨</p> <p>2 「東日本大震災」のDVDを視聴し、被害を含むどんな傷害が発生したか考える。</p> <p>○映像を参考にして、被害をできるだけ多く発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家屋の倒壊や家具の落下、転倒などによる死傷者の発生 ・電柱や看板等の落下、転倒などによる被害の拡大 ・地震に伴って起こる津波、土砂崩れ、地割れ、火災などによる被害 ・ライフライン（水道、電気、ガスなど）が断たれる。 	<p>◇突然、襲ってくることを、過去に多くの被害があったことを理解させる。</p> <p>◇日本では、地震、台風、豪雨が多いことを理解させる。</p> <p>◇災害そのものの被害は予知できるところと、できないことがあることを理解させる。</p>	<p>・傷害の防止について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。(観察)</p>
<p>3 災害そのものの被害（一次災害）なのか二次災害なのかを考える。</p> <p>4 教訓を基に、身近な家庭や学校でできる地震対策を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施、避難場所の確認 ・非常持ち出し袋の準備 ・家具等の落下、転倒防止 ・家族での話し合い 	<p>◇火災など二次災害による被害も大きいことを理解させる。</p> <p>◇災害による被害を未然に防ぐためには、何ができるか考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオなどの正しい情報を得る。 ・落ち着いた状況判断。 ・冷静・迅速・安全に行動、避難。 	<p>・自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じることについて、書き出ししている。(ワークシート)</p>
<p>5 本時のまとめをワークシートに記入する。</p> <p>日頃から災害時の安全確保や行動の仕方を理解していれば、突然の災害でも冷静・迅速・安全に行動でき、それにより二次災害による傷害の防止に繋がることを理解する。</p>	<p>◇一瞬の出来事のため、日頃からの災害への意識も含めた準備を大切にすることにより、落ち着いた行動ができるように訓練等を実施する。</p>	

中学校 2年生 保健体育

自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できることについて理解する

◇ 本時の目標

- 1 傷害の防止について、学習したことを自分たちの生活や事例と比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができる。
- 2 自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できることについて理解する。

◇ 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準[観点] (評価方法)
<p>1 地震が起きたときに、どのような行動をしたらよいか、過去の大地震の教訓等から考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・身の安全を確保する。 ・ドアや窓を開けて、避難口の確保。 ・火を消し、ガスの元栓を締める。 ・海岸近くの方は、すぐ高台に避難。 ・お年寄りや赤ちゃん、体の不自由な人の安全確保。 ・水と食料は自分たちで備えておく。(1人1日3日分) </div>	<p>◇地震が起きたとき、最初にする行動・教訓</p> <p>◇避難する際、避難した後の教訓</p>	
<p>2 避難に備えて、あなたなら非常持ち出し袋に何を入れておくべきか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>懐中電灯、ろうそく、携帯ラジオ、防災頭巾、水、非常用食料、生活用品、救急薬品、ラップなど</p> </div>	<p>◇個人思考をさせた後、ペア思考をさせる。</p>	<p>・傷害の防止について、学習したことを自分たちの生活や事例と比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。(観察・ワークシート)</p>
<p>3 自分たちの住んでいる地域で、地震が発生したときの二次災害を想定し、その時の対処行動を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・池や川の増水による浸水 ・裏山の土砂崩れ ・家と家の間が狭いため火災 </div>	<p>◇3～4人のグループ学習をさせる。住んでいる環境から起こりそうな二次災害を想定し、適切な対処行動を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難経路 ・避難方法 	<p>・自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できることについて、書き出している。(ワークシート)</p>
<p>4 3について話し合った内容を、グループごとに筋道を立てて説明し合う。</p>	<p>◇避難方法や避難経路等について、筋道を立てて説明させるとともに、自分たちの生活に生かせる内容を見付けさせる。</p>	
<p>5 本時のまとめとして、気付きや感想をワークシートに記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>日頃から、自然災害による傷害は、災害時の安全の確保に備えておくこと、冷静・迅速・安全に避難することによって防止できることについて理解する。</p> </div>	<p>◇様々な状況を想定し、危険なものを見付け、そこから逃げる方法を日頃から考えておくことが大切であることを伝え、振り返りをさせる。</p>	

中学校 2年生 学級活動

心身とも健康で安全な生活態度や習慣を形成する

- ◇ 本時の目標 津波を知り、生き抜く意味を考える。
- ◇ 準備物 VTR「釜石の奇跡」・ワークシート・避難用品(実物・写真)・チェックリスト・ホワイトボード
- ◇ 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 本時の目標を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">津波を知り、生き抜く意味を考える。</div> <p>2 3.11 東日本大震災の発生について、今の思いを共有する〈個人作業の協同化〉。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現象面 (自然の想像を絶する力) ○心情面 (命の重み) ○被災しなかった自分 <p>3 VTR「釜石の奇跡」を視聴する(22分)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学ぶべきは何か。 ○視聴後にポイントを発表することを覚えてメモを残す。 ○各自の学びを出し合う。 ○生き抜くとはどうすることか。 <p>4 今日の学びを家庭に持ち帰る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○チェックリスト(資料：生徒用)で「今」をチェックしてみよう。 ○グループで交流する。 ○家庭用チェックリストを持ち帰る。 <p>5 本時の学習をまとめる(ワークシート)。</p> <p>6 次時の予告とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇傍観者的な発言にしない。 ◇具体的な映像や印象で語らせる。 ◇自分にできることは何なのか。 ◇「釜石の奇跡」につなぐ。 <ul style="list-style-type: none"> ◇生き抜く重みから離れさせない。(傍観者にしない) ◇5月の津波避難訓練時との違いを明確にさせる。 ◇できるだけ自分の言葉で他のグループにつながせる。 <ul style="list-style-type: none"> ◇写真や現物を提示する。 ◇各自の学びが家族の学びになるように、自覚を育てる。 ◇家庭用チェックリストを配る。 <ul style="list-style-type: none"> ◇提出後、内容によっては学級だよりで紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から思いを表現している。(発表・ワークシート) <ul style="list-style-type: none"> ・集中して視聴している。 ・自分から思いを表現している。 ・他者の思いを聴き取っている。(発表・ワークシート) <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめている(発表)(ワークシート)

資料(出典名) VTR ～迫る大震災にどう立ち向かうか～

〈Chapter2〉防災教育から生まれた「釜石の奇跡」～片田教授に聞く～

中学校 3年生 理科

様々な事物・現象を大地の変化と関連付けて理解する

◇ 本時の目標

日本の太平洋沿岸で発生する海洋プレート型地震（特に東南海・南海地震）と津波のメカニズムや津波の予想される波高，到達時間等を学習することにより，地震や津波を科学的に認識し，自然と人間とのかかわり方について考察する。

◇ 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 東北地方太平洋沖地震による津波の映像を見る。(台風の高波の映像も見る)</p> <p>○ 何の映像だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北地方太平洋沖地震による津波 <p>○ 台風の高波と比べて違う点を探そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波は後からどんどん来る。 ・海が盛り上がる。 ・川の流れのようだ。 	<p>◇ 映像により視覚を通して，津波と台風の高波とを比較し，その違いを考えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・津波の特徴や津波と台風の高波の違いを発表できる。 〔知識・理解〕 (発表・観察)
<p>2 海洋プレート型地震と津波のメカニズムについて学習する。</p> <p>○ 地震と津波はどちらが先に起こるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震 <p>◆ 海洋プレート型地震と津波のメカニズムをプレートの動きから説明する。</p> <p>○ 中四国・九州地方に地震や津波を引き起こすプレートは何だろう。名前は何？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィリピン海プレートとユーラシアプレート。 <p>○ 将来，発生が危惧されるフィリピン海プレートとユーラシアプレートの境界を震源とする地震の名前を知っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知らない ・南海地震 	<p>◇ 地震発生後，津波が発生することを確認する。</p> <p>◇ 海洋プレートの沈み込みのエネルギーが，大陸プレートの西（下方向），東（上方向）への変動を引き起こし，地震から津波へと連動することを押さえる。</p> <p>◇ 図（フリップ）や映像資料を活用し位置を確認させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海底の隆起が海水を盛り上げ，それによって津波が発生することを理解できる。 〔知識・理解〕 (発表・観察)

<p>3 東南海, 南海地震について学習する。</p> <p>○ 呉(市)地域に影響を与える東南海, 南海地震や津波について学習しよう。</p> <p>◆東南海・南海地震のメカニズムとそれに伴う津波の呉市沿岸部への到達時間と波高について説明する。</p> <p>4 東北太平洋岸大津波の教訓から学ぶ。</p> <p>○「津波てんでんこ」の話・・・日頃から地震や津波発生時の避難経路, 場所の確認を家族で徹底し, 引き返さず逃げられる信頼関係の重要性を話す。</p> <p>5 学習したことをまとめる。</p>	<p>◇ 東南海・南海地震が四国沖の太平洋の海底で発生し, 津波が豊後水道と紀伊水道を經由し, 瀬戸内海に侵入することを確認する。</p> <p>◇ 地域や学校での避難経路, 場所などの確認をする。</p> <p>◇ ワークシートにまとめや感想を書かせる。</p>	<p>・津波の進入経路をワークシートに記入できる。 (観察・ワークシート)</p> <p>・津波が襲来した地域の地形や波の高さなどと被害の大きさとの関係から避難経路等を考察している。 [科学的思考・表現] (観察・ワークシート)</p>
--	--	---

中学校 3年生 学級活動

心身とも健康で安全な生活態度や習慣を形成する

◇ 本時の目標 地震発生時には、「ものが落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に身をよせる」ことを原則とすることを理解する。

◇ 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 地震に係わる被害について理解する。 被害状況の写真を見て確認する。 ○どのような状況(形)で被害にあったのか。</p> <p>2 地震発生直後です。次の時、どうすればより安全といえるか。</p> <p>○調理室前の第1更衣室で地震が発生しました。机がなく、隠れることができません、どこに移動すれば、より安全か。 ①部屋の中央 ②窓側の壁 ③戸口側の壁 ④ロッカー側の壁 ⑤中庭まで出る また、その理由は何か。どのような被害にあう可能性が少ないという形で答える。 ○各個人で考えた後、グループ協議する。</p> <p>3 どんな場所でも100%安全とは言えないが、「ものが落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に身をよせる」ことが原則であることを理解する。</p> <p>4 次の時はどうするのかを考える。 (1) 登下校中 (2) 家の中(自分の部屋) (3) デパートで買い物中</p>	<p>◇ものが落ちて被害にあった、ものが倒れてきて被害にあった、ものが移動してきて被害にあった写真を用意する。</p> <p>◇はじめの被害写真から想定される被害を受けないためには、という考え方を生徒に意識させる。 ◇意見として、「ものが落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に身をよせる」という意見が生徒から出るよう、発問をする。</p> <p>◇どの状況でも、「ものが落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に身をよせる」ことが原則であり、後は自分の判断になることを確認する。</p> <p>◇避難方法を知ったことで、今後の生活の中で気を付ける点を自己決定させ、実践につなげる。</p>	<p>・写真を見て的確に状況把握ができ、説明している。 (観察・発表)</p> <p>・自分で考え、判断したことを、根拠を示して明確に説明している。 (観察・発表・ノート)</p> <p>・自分の身を自分で守るという意識を持ち、考えている。 (発表・ノート)</p>

資料 「地震写真」、「消防庁地震防災マニュアル」

中学校 3年生 学級活動

心身とも健康で安全な生活態度や習慣を形成する

- ◇ 本時の目標 防災意識や危機対応に関する意識を高めるとともに、自他の生命の尊重や助け合いの精神・態度を身に付ける。

- ◇ 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 既習(理科・社会)内容を振り返る。 2 本時の目標を確認する。	◇理科・社会の時間に学習した、気象現象の仕組みや自然災害発生の要因を想起させる。(雨量の目安・火山活動等)	
自然災害発生の際に、日頃からどのような意識を持ち、行動すればよいのか考えよう。		
3 「昭和47年7月豪雨災害」について知る。 ○ 油木において、どのような自然災害が起きる可能性があるのか考える。 ○ 昭和47年7月豪雨災害の、発生状況を知る。 ・当時、生まれていたら、また、家族がそのような場面に遭遇したら、どのような行動をとっていただろうか。 4 「釜石の奇跡」について知る。 ○ 東日本大震災発生時の、釜石市の中学生がとった行動を考える。 ・中学生が小学生や幼稚園児を助けて避難したことをどう思うか。 ・なぜ、中学生はそのような行動をとることができたのだろうか。 5 本時の学習を振り返る。 ○ 日頃から、どのような事を意識して生活することが必要なかを考える。	◇既習内容から、考えられる災害を発表させる。 ◇写真資料・気象状況・被害状況等の概略を提示し、被災の様子を理解させる。 (特に写真資料においては、ICT機器を活用し、当時の状況を視覚で確認させる。) ◇当時の状況を、家族から聞いたことのある生徒がいれば発表させる。 ◇自然災害が他地域のことでなく、私たちの居住する地域でも、かつて実際に発生し、甚大な被害をもたらした事実を説明する。 ◇資料プリントを配付して、釜石市の中学生がとった行動を紹介する。 (危機一髪の避難行動・日頃からの防災教育と防災意識を理解させる。) ◇日頃からの意識が、有事の際に他者のことも考えられる余裕・行動につながるということを認識させる。	・当時の状況や、置かれた立場から、自分の意見を言っている。 (行動観察・発表) ・釜石市の中学生がとった行動について、共感している。 (行動観察・発表) ・日頃からの防災教育・防災意識の大切さを感じている。 (発表・学習シート)

	<p>◇最上級生として、有事の際には強いリーダーシップと協調性を発揮することの重要性を認識させる。 (学校内だけでなく、地域の中でもリーダー性が求められることとなる。)</p> <p>◇私たちの居住する地域でも、自然災害が発生し甚大な被害をもたらしたこと、東日本大震災等における防災教育・意識・行動等を語り伝えることの大切さを理解させる。</p>	<p>・最上級生として、自らの立場を自覚している。 (発表・学習シート)</p>
--	---	--

資料（出典名）

- 油木町農業百年誌（油木町農業委員会）
- 昭和47年7月豪雨災害誌（広島県）
- 昭和47年災害時記録写真集（神石高原町役場建設課）
- 月刊「ウェッジ」
- 読売新聞

学習を終えて

年 番 氏 名

□ 私たちが生活する町「油木」も、かつて「昭和47年7月豪雨災害」が発生したように、災害は「いつ・どこで」発生するかわかりません。

私たちは日頃から何を考えながら生活していけばよいのでしょうか。また、災害が発生した時に、どのような行動をとればよいのでしょうか。

今回の学習を終えて、感じたことや今日からでも自分にもできることを書いてみましょう。

さまざまな自然災害(自然環境の急変による災害)

—日本の場合—

- 梅雨末期の集中豪雨や台風による
大雨・強風・洪水・地滑り・崖崩れ・土石流
洪水・高潮
 - 火山活動(環太平洋造山帯)による
地震・噴火
 - 気候(気候区分)による
冷害・干ばつ
- 等



出典: 中学社会 地理的分野(日本文教出版)



出典: 昭和47年災害時記録写真真集(神石高原町役場建設課)



出典: 昭和47年災害時記録写真真集(神石高原町役場建設課)



出典: 昭和47年災害時記録写真真集(神石高原町役場建設課)



出典: 昭和47年災害時記録写真真集(神石高原町役場建設課)



出典: 昭和47年災害時記録写真真集(神石高原町役場建設課)



出典：昭和47年災害時記録写真真集(神石高原町役場建設課)



出典：昭和47年災害時記録写真真集(神石高原町役場建設課)



出典：昭和47年災害時記録写真真集(神石高原町役場建設課)



出典：昭和47年災害時記録写真真集(神石高原町役場建設課)



出典：昭和47年災害時記録写真真集(神石高原町役場建設課)

昭和47年7月豪雨災害(出典：油木町農業百年誌)

気象概況
 梅雨入りは、6月3日で平年より6日早かった。6月中旬から本格的な梅雨の気圧配置となり、梅雨前線が西日本に停滞するようになった。
 7月ごろは、梅雨明けを思わせるような好天が続いたが、低気圧の東進に伴って非常に湿った気流(湿舌)が吹き込み、7月9日の夜半からは、梅雨前線が刺激されて昼間は北上、夜間は南下を繰り返した。
 一方、南方海上には、台風が4個も発生し断続的な大雨を長時間降らせた。

昭和47年7月豪雨災害(出典:油木町農業百年誌)

7月9日	24:00		降り始めからの雨量	34.0mm
7月10日	3:10	大雨注意報発令		
	13:40	大雨洪水注意報発令		
	24:00		降り始めからの雨量	91.5mm
7月11日	6:00		降り始めからの雨量	202.5mm
	7:00	大雨洪水警報発令		
	10:00	油木町災害対策本部設置	降り始めからの雨量	237.0mm
	11:00		降り始めからの雨量	253.0mm
	17:00		降り始めからの雨量	302.5mm
	21:00		降り始めからの雨量	400.5mm
7月12日	1:00		降り始めからの雨量	450.1mm
	14:00		降り始めからの雨量	467.0mm
	24:00			
7月13日	6:45	大雨洪水警報解除		
	16:10	大雨注意報発令		
	18:00	災害救助法の適用		
	24:00		降り始めからの雨量	470.0mm
7月14日	17:00	大雨注意報解除		
	24:00		降り始めからの雨量	512.5mm

昭和47年7月豪雨災害(出典:油木町農業百年誌)

被害状況

河川の氾濫で堤防の決壊・家屋・橋梁・田畑の流失・冠水・埋没もあった。

また、道路は、山崩れや崖崩れ等150箇所寸断された。その他停電や電話も不通となり多くの集落が孤立した。

○家屋の全壊又は流出	17世帯	53人
○床上浸水	13世帯	46人
○家屋の半壊	3世帯	11人
○床下浸水	30世帯	165人
○人的被害		なし

■雨量の目安

出典:気象庁用語解説

1時間雨量 [mm/h]	字報	人の受けるイメージ	人への影響	屋内(水通住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて	災害発生状況
10~20	やや強い雨	ザーザーと降り始める	地面から雨の音で話し声が聞き取れなくなる	雨の音で話し声が聞き取れなくなる	地面一面に水たまりができる	ワイパーを速くしても見づらく	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要
20~30	強い雨	どしゃ降り	傘をさしていてもぬれる	傘をさしていてもぬれる	道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)	氾濫や下流、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる
30~50	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	傘をさしている人の半分以上が雨にぬれる	傘をさしている人の半分以上が雨にぬれる	水しぶきであたり一面がぼくぼくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険	山崩れ・崖崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要 建物では下水管から雨水があふれる
50~80	非常に激しい雨	異常なほど降る	傘は全く役に立たなくなる	傘は全く役に立たなくなる			都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある マンホールから水が噴出する 土石流が起こりやすい 多くの災害が発生する
80~	猛烈な雨	異常なほど降る	異常なほど降る	異常なほど降る			雨による大規模な災害の発生のおそれが高く、最悪な警戒が必要

参考:神石高原町
 大雨警報基準 1時間雨量50mm
 大雨注意報基準 1時間雨量30mm
 洪水警報基準 1時間雨量50mm
 (小田川流域 14mm 帝釈川流域 15mm 福新川流域 13mm)
 洪水注意報基準 1時間雨量30mm
 (小田川流域 8mm 帝釈川流域 12mm 福新川流域 10mm)

防災教育3原則(避難3原則)

- ◇想定にとらわれるな。
- ◇その状況下において最善をつくせ。
- ◇率先避難者たれ。

片田敏孝(群馬大学大学院教授)

「想定外」を生き抜く力

月刊「ウェッジ」2011年5月号（2011年4月20日発行）より（一部抜粋）

釜石市の鶴住居地区にある釜石東中学校。地震が起きると、壊れてしまった校内放送など聞かずとも、生徒たちは自主的に校庭を駆け抜け、「津波が来るぞ」と叫びながら避難所に指定されていた「ございしょの里」まで移動した。日頃から一緒に避難する訓練を重ねていた隣接する鶴住居小学校の小学生たちも、後に続いた。

ところが、避難場所の裏手は崖が崩れそうになっていたため、男子生徒がさらに高台に移ることを提案し、避難した。来た道を振り向くと、津波によって空には、もうもうと土煙が立っていた。その間、幼稚園から逃げてきた幼児たちと遭遇し、ある者は小学生の手を引き、ある者は幼児が乗るベビーカーを押して走った。間もなく「ございしょの里」は波にさらわれた。間一髪で高台にたどり着いて事なきを得た。

釜石市街の港近くにある釜石小学校では、学期末で短縮授業だったため、地震発生の瞬間はほとんどの児童が学校外にいた。だが、ここでも児童全員が津波から生き残ることができた。

ある小学1年生の男児は、地震発生時に自宅に1人でいたが、学校で教えられていた通り、避難所まで自力で避難した。また、小学6年生の男児は、2年生の弟と自宅にいた。「逃げようよ」という弟をなだめ、自宅3階まで上り難を逃れた。授業で見たVTRを思い出したからだ。既に自宅周辺は数十センチの水量で、大人でも歩行が困難になっており、自分たちではとても無理だと判断した。彼らは、自分たちの身を自ら守ったのである。